## で物画信

No. 26 2015年

発行 地域生活ケアセンター 小さなたね

【医療法人にのさかクリニック】

中で、 質として、 どもたちが見守り、 められているのか? 分は何ができるのか? なります。 でしょう。 しかし、

人社式のあいさつで、 「言葉を発することの困難

なたね〉 候に恵まれなかったこともあり、 桜の季節を迎えたこの春、 の利用者さんは、 今年は天 介さ 近

たねスタッフのつぶやき

ませんでした。 の公園へお花見に行く機会があり

2月から筑肥線と地下鉄空港線を 走っているJRの白電車(305系)。

各車両の車いすスペースに、折骨 み式の介助者席があって感激した。

介助者は立ちっぱなしで、数時間

の外出で座ったのは便座だけ、な

んてこともあるが、誰かが声をあ

げて叶ったものと感謝。福岡市営

地下鉄の全駅にエレベーターが付

いたのは2000年。以前は数日前

に駅に連絡して段取りし、駅員さ

んの介助で乗っていたという。地

じゃなかったことに驚きつつ、声

をあげていく必要を思った。(E)

下鉄にエレベーターは当り前

も桜の花吹雪を楽しみました。それ でもそのかわりに、 ふわふわピンクのお花紙で作っ 室内でなんど

小さなたねの物語が描かれたステンドグラス(グラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

らのシャワーに、 に大型の桜の花びらです くり返しヒラヒラと舞い散る花び 笑顔で触れたり目

を見張ったり、

時折青空が覗く天窓

ました。 のひと時があり 〈小さなたね〉 (東島)



の下で楽しんだ

地域生活ケアセンター

電話 092 - 874 - 3051 FAX 092 - 874 - 3052

E-mail: chisanatane@tune.ocn.ne.jp



医療法人にのさかクリニック 地域生活ケアセンター 小さなたね

〒 814 - 0172 福岡市早良区梅林 6 - 23 - 3

### 無く てならな も

新年度のスター 初めての 2名の新人スタッフの辞令を交付いたしまし 「入社式」を行いました。 トです。 普段にない少し緊張した空気の 小さなたねも開所から4 利用する子

ちでいるのか、

こちら側で想像をたくましくして関

利用している人たちがどんな気持

な人たちを介護

してい

く上で求められていることは

所長

水野

英尚

想像力』です。

わって欲しい」と伝えました。

どの世界でも人が集

まれば、

声の大きい人や要求の強い人が注目され、

小さなたねの空間では、声の小さい人、

出してみる。そこが重要です。 そこから立ち去らないで立ち続け、そして一歩踏み 働いているスタッフにとっても、ここがやりがいと うなるための環境整備や処遇改善も当然必要なこと 魅力ある職場となっているかは大切なことです。 これから働くスタッフはもちろんのこと、 目の前の重い障がいのある彼 無くてはならないものがあります。 また、事業所による経営努力も不可欠と 一方でスタッフに求められる資 その問いの前に立ちながら、 何が不足していて、 (女) たちに、 すでに それ の社会の中での小さなたねの役割りです。その意識 その場の雰囲気や流れを変えてしまう影響を持つも を持つことがスタッフには求められているのです。 自己主張の少ない人こそ中心に置かれていくことを のですが、

想像力を豊かに働かせ、

そういう空間を創り出し

歩んで行きます。 きたいと思います。弱 触れながら、今年度も さと小さくされている ていけるよう努めてい 人たちの豊かな感性に

初めての共同作業!?

大切にしなければならないと考えます。それが、

### ね の ごれ

をつくる良い機会になったと思います。 しました。新たなスペースをどのように活用していくのか 11名の保護者と支援者やスタッフ8名の参加があり 今回の懇談会は 保護者同士が顔を合わせる機会 懇談の時をもちま 利用されている 出会いと繋がり

訪問介護等の3つの事業を行ってきた中での課題として、 医療型日中一時支援、居宅・ 重度 (身体の緩め・ほぐし)を考えることは必須です。 ③今後の小さなたねの取組み 2階は事務室、相談室、カフェスペー 形が進む彼(女)たちにとって、 身体の拘縮や筋肉の緊張、側弯(脊柱の歪み) ス、浴室(リフト付き)、 個別のリラクゼ

その後の勉強会での事例検討を適時行い、 できるだけ少ない状態で過ごせるように、 点を当て、在宅での栄養評価の観点から本 ったリラクゼーションプログラム に開催している江藤氏・大塚氏の理学療法士による訓練会 胃ろうや鼻腔チューブによる経管栄養に焦 (入浴も積極的に導入し 每月第三水曜日 一人ひとりに合 人の栄養状態

幼児期から成人期までの幅のある年齢に対応しながら、

体調が不安定な一人ひと

介護スタッフ配置の難

①たねの現状

特定医療型短期入所、

栄養のバランス、

とによる活動スペースの確保の課題等があります

あるいは、

## 小さなた

これまで利用していても、 保護者の皆さんを中心に集まって頂き、 の少ない中でしたので、 これからの取り組みをどうしていくのか、 小さなたねの増改築に伴って、先日は〝懇談会〟を開催

う小さなスペースですが、 旬を完成目途に工事が着々と進められています。 必然となりました。 活動スペ スの確保は近々の課題でしたので、 現在、 すでに基礎工事を終え、 1階にはキッチン、フリースペ オープンデッキ等、 スを予定しています。

増改築は

# から

### 『世界史の極意』

佐藤優著 (NHK 出版新書、780円 + 税)

日々の仕事に追われると、つい 目の前のことだけに囚われて、周 囲が見えなくなってしまいます。 世界史を見つめることは、今世界 で何が起こっているのかを、広い 視野で考えるきっかけを与えてく れます。本書は、グローバルな視 点を養う入門書です。



世界史の極意

佐藤優。

4月19日(日)に、にのさかクリニックで予定されて いました、「さわらチャリティイベントバザー」が 雨のため延期となりました。次の開催日は、

#### 5月17日(日)12時~

MS

となっています。

小さなたねは、、たねうどん、、かしわめし、などの出 店を予定していますので、是非お越しください。



などの変

・ション

願

介護は、ケアする担い手に様々な負担を強いる一方で、 ケアされる側から、癒しや関わりの楽しさを与えられ、自 分の存在を肯定する気持ちや満足感が生まれることもあり ます。しかし、それが先の見えない介護に対する不安や、 多重介護、老々介護となると、介護者は精神的なストレス を抱え、心身共に疲れ、否定的な感情を抱くようにもなる と思います。また、介護者が急病になる、家族や身内に不 足の事態が起こる、といったことを考えると常に不安を抱 きます。介護する側が高齢になってくると、より切実な問 題です。

重い障がいを持たれている人でも、安心して利用するこ とができ、充実した時間を過ごせて、宿泊も必要時はいつ でも可能、そして将来はその場所で暮らせる。そんな「お 家」が近くにあれば、介護者も安心して過ごせるはずです。 まだまだ、お預かりやヘルパー利用の制度が普及していな い時代の、私の体験から切実な願いでもありました。

小さなたねの現状では、まだお預かりの時間もスタッフ も限られており、ご家族の要望にすべて応えられる体制に はなっていません。訪問での支援も、医療的なニーズがあ ると、研修を受けていない介護スタッフでは対応できない こともあり、支援の難しさを感じます。「介護」とは、介

助と看護を組み合わせてできたと いう説もあるそうです。医療と福 祉の連携が不可欠です。小さなた ねの看護師、保育士、介護職員す べてで、利用者、その家族の支え になれるように願います。



のあるなし えるきっかけとしていく。 それを「スープカフェ」と銘打ち、注入可能なオリジナル そこから考案されたメニューを分かち合う試食会を開催。 日に保護者向けに調理方法のアドバイスや指導をしていき 法を検討する ティアによる

たね食堂 のある人たちと分かち合う場ができることで、 スープを、 (経管栄養のみ対象)) 毎月1回を受けつつ、 管理栄誉士の を楽しみ、 を目指して行きたい 保護者やスタッフはもちろん、 (経口・経管) に関わらず、 味わい、 小渕氏による、 を考える場の提供を行い 考えることのできる もその延長線上と考え、 そして、 在宅での 毎週金曜日のボンラン その他の関わり すべての 「管理栄養指 たいと思い オー 〃食〃 を考 毎週水曜 障がい 人が プン

ることは重要なことです。 が整えられ、 制度にばかり目が向い 充実してきています。 ここ数年で大きく変化してきています。 ス事業所も増え、 障がいのある人たちの地域生活における支援の在り様は 安定してサービスが提供でき 一人ひとりの暮らしを支える支援体制も そのように福祉制度 しかし、 「制度あり 一方で 障がい福祉サ

> って、 発作に襲われても、 業所中心になって 知恵を出し合い、 姿に励まされながら、 できない声と、自由に 創る上で、 向かっていきたいと願います。〝言葉〟を発することの 小さなたねは、 くことが、支援者として求められていることです。 つまり その上に何を組み上げ、 大切にしなければならないことが抜け落ちて ^生活の質^をどう確保していくのかを考えて アイデアを凝らした仕組みを創りあげて 多くの協力を頂きながら、 しまい 強くたくましく生きる彼(女)たちの その暮らしを守り続けていくための の利かない身体を抱え、 創意工夫を凝らしていくの あくまでも のある人たちの暮らし さらなる歩み 日々の痙攣 であ

特に未就学期や成人期の人たち 社会の中での が所属が のステージが必要だと感じていま を失いやすい年代の人たち 医療ニーズがあること の人生の主役となれるステージを一つひとつ築いていく、

かなければなりません。そして、

(女) たちが

自分

す。 けていく中で、 ながら歩み続けていきたいと思います。 さなたねですが まだまだ未熟で欠けだらけの、 欠けたものを補い合い 共に地域で暮らし



の考えは

支援を提供する事業者や事



4月29日(日)

 $12:00\sim14:00$ 

にのさかクリニック駐車場にて



今年も恒例の春のバザーの 季節がやってきました。 \*たねうどん、出店予定です。 食べに来てください!



### 小さなたね増築工事が始まります

地域生活ケアセンター小さなたねは間もなく5年目に入ります。おかげさまで多くの方のご協力とご理解をいただき、利用される方々も、幼児から成人された方まで幅広い年齢層に広がっています。ただ、その一方で、施設が手狭になり、排せつ介助や入浴介助での十分なプライバシーの確保が困難となっておりました。

そこで、これまでの駐車スペースに別棟(2階建)を建設して、介助の場所を広げ、さらに、リフト浴ができる浴室や、コミュニティスペース(カフェ)も併設することにいたしました。

工期は3月末から7月上旬(予定)です。皆さまにはしばらくご不便やご迷惑をおかけいたしますが、どうぞご理解くださいますようお願いします。

また、駐車スペースとして、道路を挟んだ向い側の駐車場 を確保しております。いったん施設内に入って利用者さんを 降ろされた後、そちらに回ってご利用ください。







